

各位

2018年11月29日

株式会社アプリクス

(コード番号:3727 東証マザーズ)

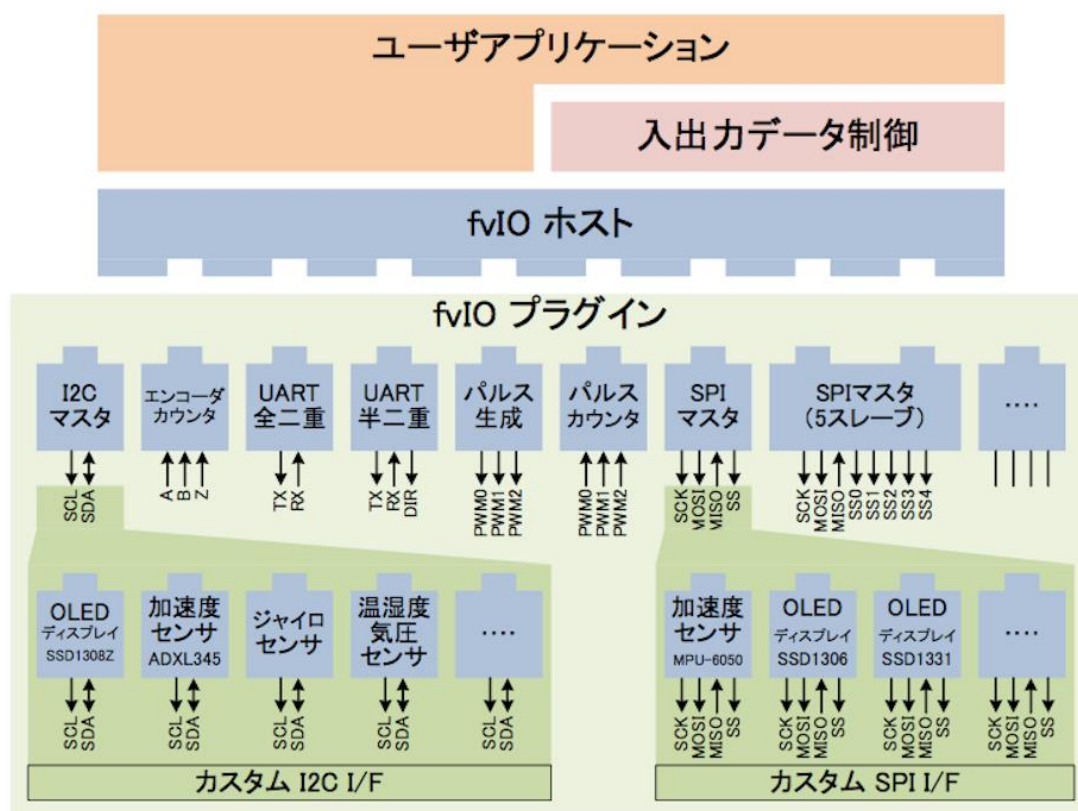
アプリクスとシマフジ電機がルネサス エレクトロニクス製マイクロプロセッサ RZ /T1 向け I/O 端子機能仮想化技術「fvIO™」を共同でプロモーションしていくことで合意

～fvIO プラグイン™を市場投入し、fvIO プラットフォーム™の普及拡大～

IoT(Internet of Things)製品向けソリューションの開発を手掛ける株式会社アプリクス(本社:東京都新宿区、代表取締役 兼 取締役社長:長橋賢吾、以下「アプリクス」)は、組込み向けハードウェア及びソフトウェアの開発を手掛けているシマフジ電機株式会社(本社:東京都大田区、代表取締役:藤代巖、以下「シマフジ」)と、シマフジが開発した「fvIO™」技術を共同でプロモーションしていくこと、並びに同社の「fvIO プラグイン™」の販売なども協力して進めることについて、2018年11月に合意したことをお知らせいたします。

シマフジが開発した「fvIO」とは「functions-virtualized Input/Output」の略で、「マイコン/マイクロプロセッサが内蔵するI/O端子機能を仮想化する技術」であり、ソフトウェアによる実装と比べて処理速度の高速化を実現します。このfvIO技術は、各種インターフェイス(I/F)を実現する「fvIOプラグイン」を「fvIOホスト™」に設定することで、ひとつのマイクロプロセッサで各種のI/Fを利用することが出来るようになり、これらの組み合わせをfvIOプラットフォーム™と称しています。なお、「fvIOホスト」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社(以下「ルネサス」)製のマイクロプロセッサ「RZ/T1」(以下「RZ/T1」)などに実装されたfvIOを実現するための機能を指しています。

<fvIOプラットフォーム>



シマフジでは、ルネサス製マイコン(RZ/T1)を搭載したIoT-Engine規格のCPUモジュール製品SEMB1401にfvIOプラグインを搭載した製品の市場投入を当社における2019年第1四半期会計期間(2019年1月1日～2019年3月31日)中に予定しており、すでに問い合わせの受付も開始しています。

今後の展開や販売予定価格は別紙1の通りです。

アプリックスは、fIO ホストであるルネサスの「RZ/T1 (RZ/T シリーズ)」をはじめ、ルネサスの「e-AI」を高速実行するオフロードエンジンとして最適な DRP (Dynamically Reconfigurable Processor、ルネサスが開発した、1 クロックごとに演算回路を動的に変更できるプロセッサ技術、詳細については[こちら](#)をご参照ください) を搭載するマイクロプロセッサ「RZ/A2M」、並びにこれらに対応するシマフジの「fIO プラグイン」をベースとする組込み機器開発、開発支援、受託開発及びソリューションの構築などを行います。また、併せてシマフジの「fIO プラグイン」に係る販売代理業務も開始する見込みです。

シマフジの取締役 犬尾 武は以下のようにコメントしています。

「アプリックスの IoT ソリューション技術と、これからますます多種多様化するセンサに柔軟に対応し、かつその性能を最大限に引き出すことが可能な fIO とを組み合わせる事により、利用用途ごとに最適な IoT デバイスを素早く実現することが可能になります。アプリックスとの fIO の共同プロモーション及び fIO プラグインの販売サポートを通じて、民生から産業までの幅広い分野におけるフレキシブルで高性能な IoT デバイスの普及に貢献していきたいと考えています。」

アプリックスの常務取締役 根本 忍は以下のようにコメントしています。

「シマフジ電機の確かな技術力と実績を背景に、fIO テクノロジーをベースとしたソリューションを構築し展開していくことで、今後ますます加速する IT (情報技術) と OT (制御技術) の融合、あるいはエッジコンピューティング及びフォグコンピューティングといった領域における新たな価値を創出する流れに、当社も微力ながら貢献してまいりたいと考えています。」

アプリックスとシマフジは、当社における 2019 年第 1 四半期の fIO プラグイン市場投入時期を目処に、さらに複数の企業や団体等とパートナーシップを結んでプロモーション体制をより強化していくと共に、ルネサスが 2017 年 4 月に打ち出した方針、すなわち汎用事業における IoT 活用の方向性として政府が推進する超スマート社会「Society 5.0」を基に「スマートホーム」「スマートファクトリー」「スマートインフラ」の実現に貢献していくという流れに対して、微力ながら貢献してまいります。

以上

■シマフジ電機株式会社について

1990 年 11 月設立。

創業時より先端デバイスを用いる機器の受託開発を行っており、マイクロプロセッサや FPGA(Field-Programmable Gate Array)を搭載した評価ボード、組込みソフトウェアの設計開発を得意とする会社です。

2004 年に開発した超小型コンピュータ「Teacube」の流れを汲む SEMB1401 や SEMB1402 に、IoT 時代の手足となる fIO を搭載することにより、組込みボードの未来を、そして人々の未来を創造していきたいと考えております。

コーポレートサイト <http://www.shimafuji.co.jp/>

■株式会社アプリックスについて

アプリックスの使命は「ソフトウェアの力で世の中のあらゆる人々に幸せをもたらすこと」です。携帯電話での Java 利用という新しいフロンティアを切り開いた「JBlend」に続き、開拓中の分野が、IoT(Internet of Things)です。当社ではIoTモジュール(ビーコン)、スマホアプリ、クラウドサービス等のIoTソリューションを一貫して提供することで、家電製品等のIoT化を推し進め、「モノからの通知によって人々の生活を豊かにする」というコンセプトの実現を目指しております。

アプリックスのwebsite(投資家情報等) : <https://www.aplix.co.jp/>

アプリックスのテクノロジー事業 : <https://business.aplix.co.jp/>

Facebook公式ページ : <https://www.facebook.com/AplixCorporation.official/>

■お問い合わせ先:

アプリックスのお問い合わせページ : <https://www.aplix.co.jp/inquiry/>

シマフジ電機のお問い合わせページ : <http://www.shimafuji.co.jp/contact>

※ 記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

シマフジにおける fIO プラグイン™の今後の展開や販売予定価格は、下記の通りです。

標準的な fIO プラグイン(以下「標準 fIO」)は下記のボードに添付される予定です。

型式	内容	価格	fIO のステータス
SEMB1401	RZ/T1 搭載 IoT-Engine 規格準拠ボード	16,800 円	提供可能
SEMB1402	RZ/A2M 搭載 IoT-Engine 規格準拠ボード	19,800 円	開発中
SBEV-RZ/T1	RZ/T1 搭載評価ボード	24,800 円	企画中
SBEV-RZ/A2M	RZ/A2M 搭載評価ボード	44,800 円	企画中

- ・上記ボードに実装された標準 fIO は評価目的、組込んで量産する場合のいずれでもロイヤリティーなしでお使い頂けます。
- ・上記ボードで標準 fIO を使用する場合の有償サポートプログラム(サポート期間3ヶ月:¥98,000)もございます。必要な場合はお問合せください。
- ・標準 fIO 以外の各種 fIO プラグインのカスタム開発も可能です。
- ・標準 fIO を上記以外のボードあるいは RZ/T1などを搭載したシステムなどで使用する場合は個別にご相談ください。